

牧草の種まき

牧草を春播きする時候になりました。牛舎の近くの空地とか路傍、裏山、水田のあぜなど、ちょっとしたところでも牧草の種子を播いておきますと、思わぬときにとっても助かるものです。大きな面積の草地改良地や牧草畑をつくる場合は、春播きより秋播きの方が安全でしょう。と云うのは、面積の大きい場合は春播きをしますと、手入れが行きとどかないため雑草に負け易いことと、真夏の頃の日照りのために乾ばつの害を受けて、いわゆる夏枯れを起し易いからです。手入れができて、乾ばつの頃に水をかけることができるようなところでしたら、春播きをしても大丈夫です。この点牛舎の近くの空地や畦畔などは、便利で手入れし易いからです。

◎種子を播こうとするところにはまず低く草刈りをして、炭カルを1アール当り20～40kg、厩肥200kg

をまき、起せるところは起しますが、それができないところは播き溝だけを唐鍬で荒起しし、土を砕いて硫安または石灰窒素を1アール当り2kg、過石または熔燐3kgをふりまき、更に切り込んで整地します。

牧草の種子はオーチャード1アール当り200瓦、イタリアンライグラス50瓦、赤クローバー100瓦、ラジノクローバー30瓦位を禾本科と荳科は別々に混ぜて、始めに禾本科を、次に荳科を均等に播きます。この場合始めてクローバーを播くところには必ず根瘤菌を接種してやらねばなりません。根瘤菌でなくとも、別にクローバーが生えている畑の中から、クローバーの根を掘ってみて根瘤菌がついているかどうかを確かめて、その土を種子にまぶして播いても結構です。

レープの春刈利用

レープ（青刈ナタネ）も品種によっては、はや抽苔して来ました。レープは抽苔して花が咲き始めますと急に茎が硬くなり、乳牛に与えても茎の喰べ残しが多くなり、消化も悪くなって飼料価値も下がりますから、できるだけ早く利用することが必要です。抽苔し始めてから花が咲くまでは約20日間位ですから、花が咲き始めるまでに利用してしまうためには、1日1頭20kgとして作付面積と考え合せて刈取り始めを決めてください。

また急に多量のものを与えますと下痢をしますから、少しずつ増やして、馴らしていくようにします。

畑に作った場合は、レープの跡はツル取り甘藷を4月下旬に植え出すとよいでしょう。